

塩川中学校だより

11月号



喜多方市立塩川中学校 令和3年11月1日発行

喜多方市塩川町字高道 1551 番地 TEL0241-27-2021 fax0241-27-2170

人は置かれた環境に適応する

11月になりました。2学期の授業日も残り40日あまり。朝夕の気温もずいぶん低くなり、今日は用務員さんが玄関前の松の木の選定作業をしてくださいました。今後、雪囲いとして松の木の雪吊りが予定されています。近隣の山々の多くの樹木も紅葉で色鮮やかになり、まもなく本格的な冬がやってきます。最近、コロナワクチンの副反応等で体調を崩す場合が多いようですが、風邪をこじらせないように体調管理にしっかりと取り組んでほしいと思います。

11月中旬には、期末テストが行われます。特に、3年生は、受験に向けて、これまで以上に、自分でたてためあてに対してどんな努力ができたのか、成果や課題について検証することにもしっかりと取り組ませたいと思います。単に成績の善し悪しだけに着目するのではなく、そこに至るまでの過程にもしっかりと目を向け、1年生から3年生まで全員、頑張れるところはより頑張れるようにさせたいと思います。

来週からは、三者面談も予定されています。担任は生徒達の頑張った姿やこうするともっとよくなるという点を保護者の皆様にお話したいと計画していますので、ぜひご都合をつけてご来校いただきたいと思います。

さて、10月21日（木）に、今年度の蒼煌祭プレイベントとして、教育講演会を開催しました。今回は、香川県から竹下和男先生をお招きし、「弁当の日で身につく力」の演題で生徒達を対象に講演をしていただきました。竹下先生は、「弁当の日」提唱者として、全国で2500回以上講演をされていらっしゃるが、「弁当の日」とは、竹下先生が香川県内の小中学校長時代に取り組んだ、子ども達が自分で作るお弁当のことを指しています。当時の勤務していた学校で始めた実践で、献立・買い出し・調理・弁当箱詰・片付けの全てを子どもだけにやらせるお弁当の取り組みのことです。親は、決して手伝わないというきまりを守ってもらうことで、子どもの自立を促す狙いとなっているとのことでした。

講演では、弁当の日の実践から体験された様々な児童生徒の変容、家族のために努力している生徒の姿、母親の愛を初めて知ったという話など、数多くの感動的なお話や現在の日本の家庭における食に関する危機的な実態などについて盛りだくさんの内容であったという間の1時間半だったわけです。生徒達も真剣に耳を傾けていたようです。

ところで、タイトルの言葉は、ご講演いただいた竹下先生が述べた言葉です。竹下先生曰く、『子どものことを思うがあまり、「何もしなくていい」という子育てこそが、将来大人になる子どもを駄目になっている』と熱く語られておりました。ゲームばかり、携帯電話ばかりで、子どもは置かれた環境に適応し、楽な環境であればそれを当然として享受して



しまうこと、子どもが育つ上で必要な適度な負荷を与えない環境をよしとしている大人が少なくないことなどを話されていました。

自分の子育てを振り返ってみると、思い当たることがあります。

○ 忙しいから、自分でやった方が早いから、手伝いをさせていない。

○ 10年前に高校生だった娘は、部活動で忙しく、料理をさせなかったため、当時、レタスとキャベツの区別がつかなかった。など 恥ずかしい限りです。

このことは、子どもを虐待したり、養育を放棄したりすることとは全く違いますが、子どもの幸せな未来を奪っている点では同様のこともかもしれません。適度な負荷を与えることは、素敵な大人になって欲しいという愛情があればこそできるのであり、あえて失敗を経験させたり、すぐに対応せず悩み考えさせたりすることも大事な愛情だと思ふのです。そして、子どもにとって、いつも見守られているという大人との信頼関係が育まれていることが大切なことだと感じました。

実は、この講演会の翌々日、蒼煌祭本番の日、2年3組の小林雄陽君が、誰にも何も言われぬのに、登校前に、担任の宇川先生に卵焼きを作って届けてくれました。右の写真がその時の写真です。「自分だけで作った卵焼きをどうしても担任の先生に食べさせたい」とのことで、担任も受け取った後、とても喜んでいました。とてもさわやかな時間でした。

学校でも、家庭でも将来の子どもたちの幸せな未来のためにいろんなことを体験させていきたいと思ふます。今後、塩川中学校でどのような取組ができるか、しっかり検討して参ります。



第18回蒼煌祭大成功！！ 塩川総合支所の協力ありがとうございました

10月23日（土）に行われた第18回蒼煌祭の結果については、各学年の学年だよりでお知らせしておりますが、当日は、蒼煌祭実行委員会を中心に今年度のテーマ「HERO THE STORY 塩中生 一人一人が誰かのヒーローに」のもとに、全校生一人一人が自分の役目をしっかりと自覚し、自分のため、学級のため、学年のためそれぞれに力を発揮してくれました。

内容は、盛りだくさんで、生徒全員で取り組んだビッグアート披露、学級対抗合唱コンクール、市少年の主張コンクール発表（3年齋藤優愛さん）、各学年の総合学習の発表と素晴らしい内容でした。また、美術科作品、書写作品等を展示いたしましたので、多くの保護者の方にも参観していただきました。

蒼煌祭開催にあたっては、塩川総合支所様より軽トラックを特別に出していただき、展示パネルを搬送することができました、大堀総合支所長さん自ら運転していただき本当にありがたかったです。

今後も蒼煌祭のような、生徒が主語になる教育活動をしっかり進めていきたいと思ふます。